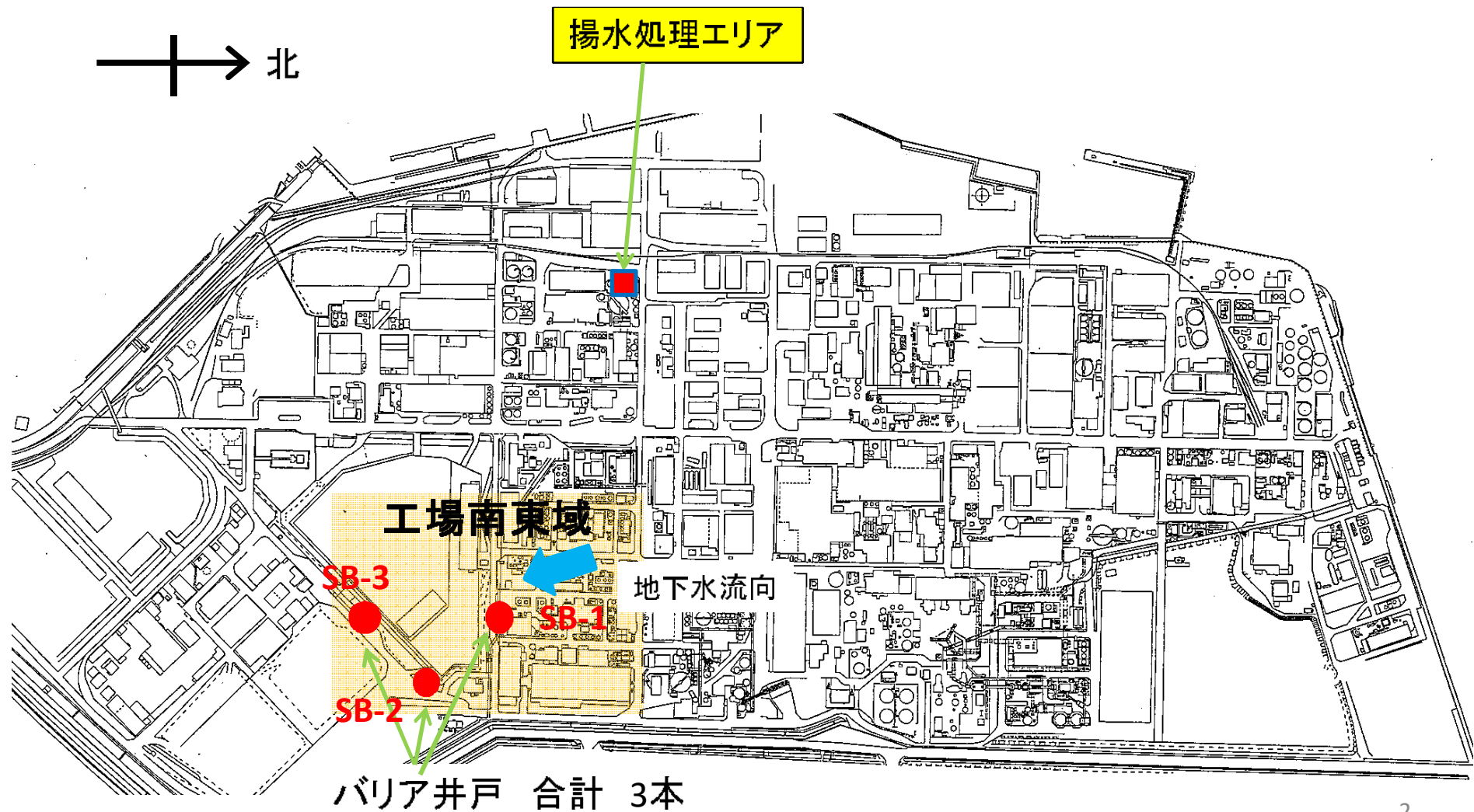


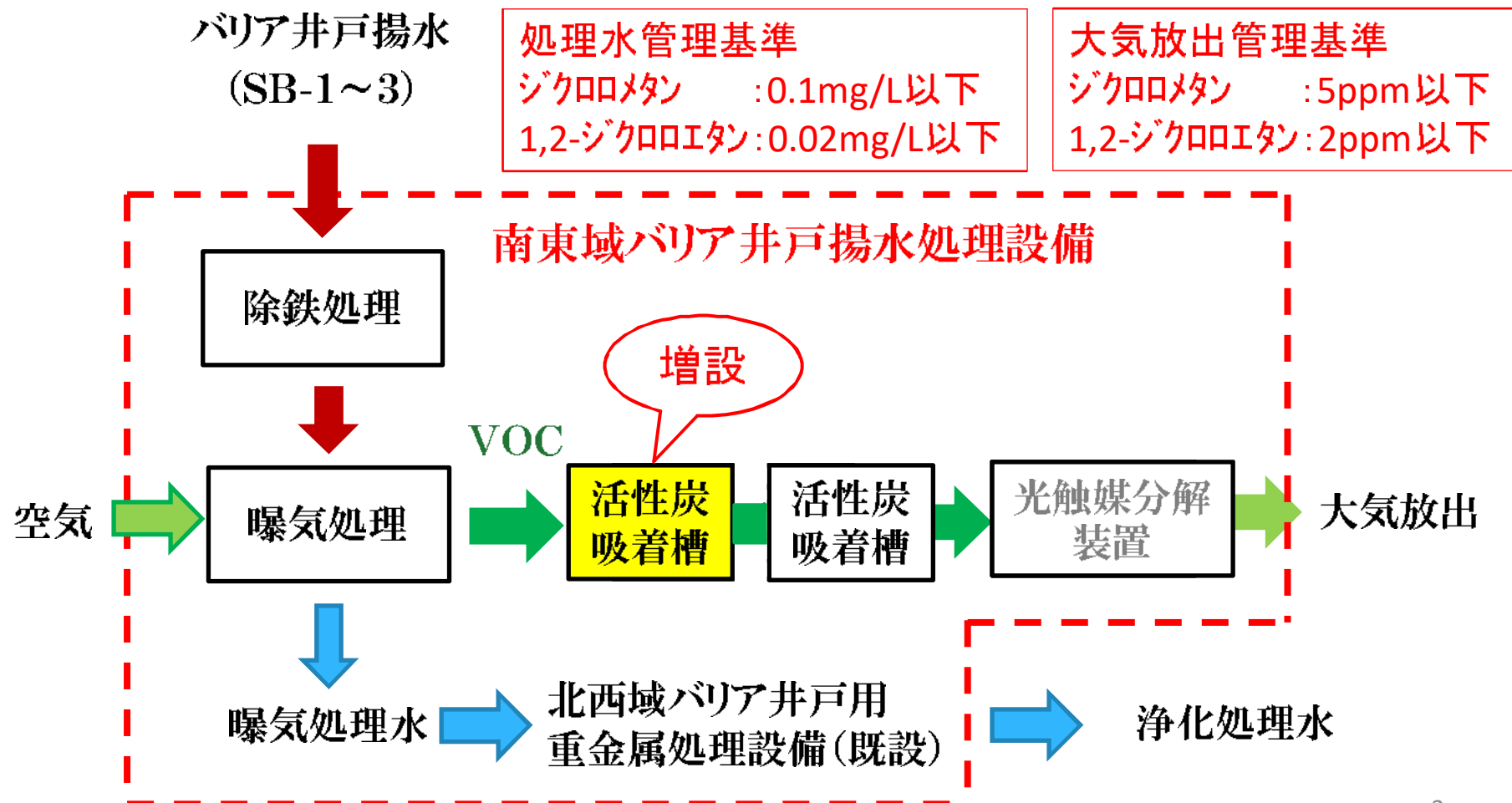
# 南東域バリア井戸揚水処理設備 の改造及びこれまでの運転実績

2018年 6月 6日

# 南東域バリア井戸関係設備配置



# 南東域バリア井戸揚水処理設備フロー



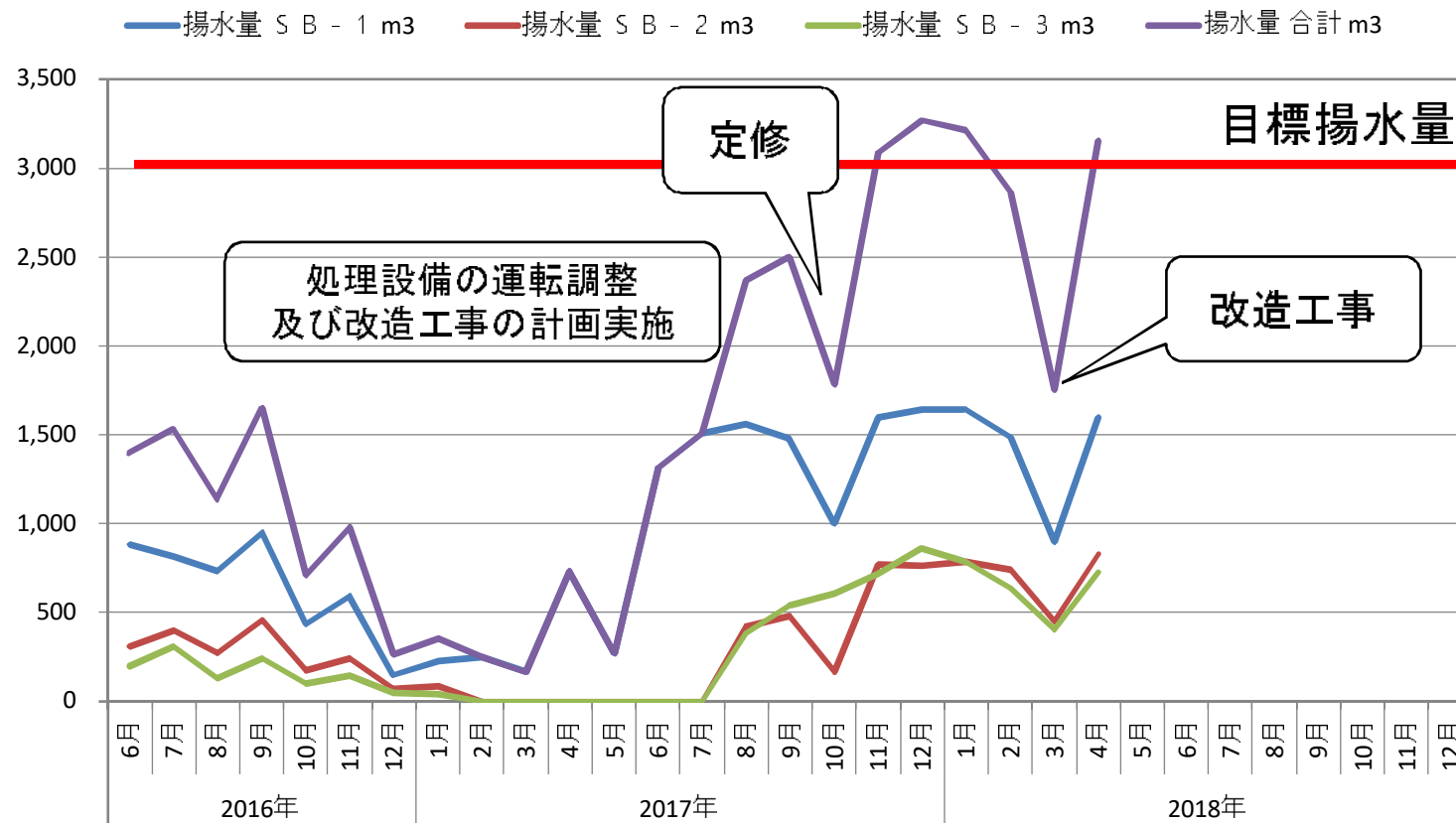
# 南東域バリア井戸揚水処理設備 改造工事(3月中旬完工)



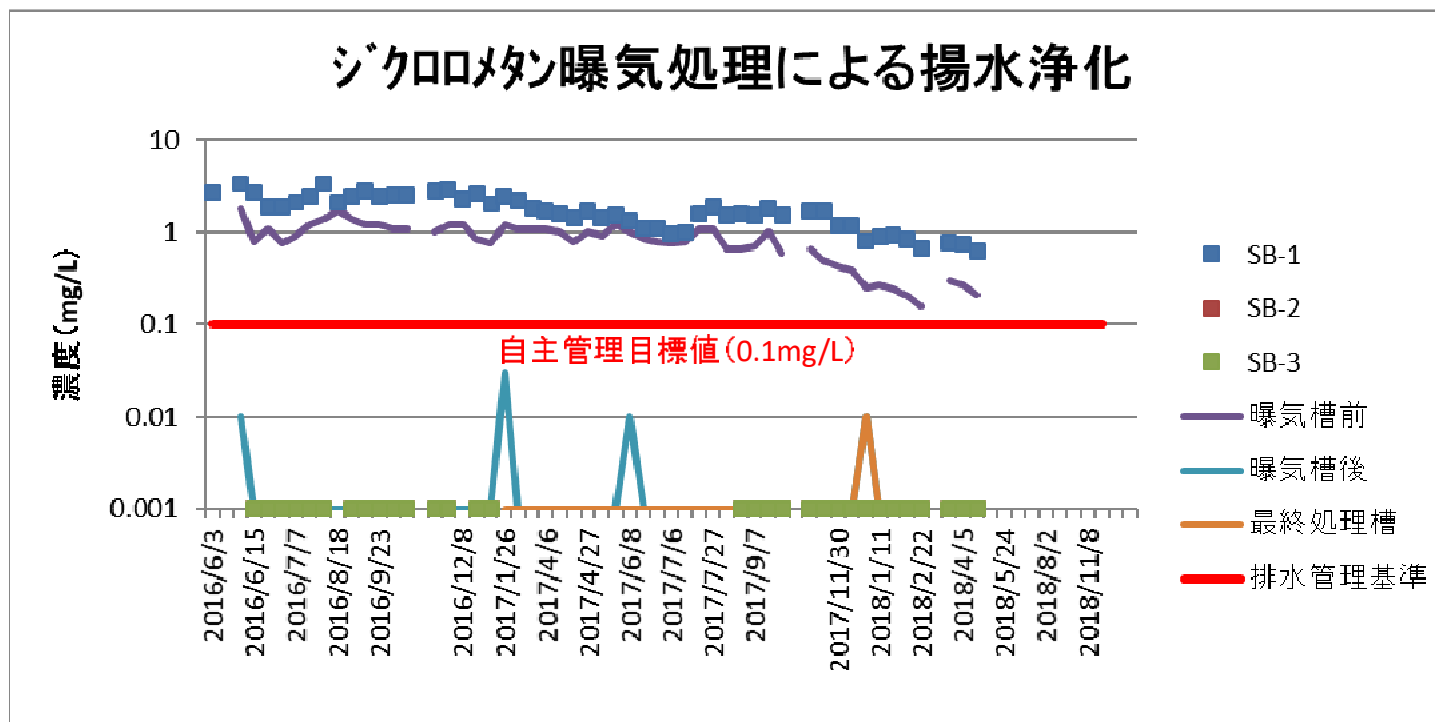
# 南東域バリア井戸揚水処理設備運転実績

目標揚水量 SB-1=50m<sup>3</sup>/日 SB-2,3=25m<sup>3</sup>/日

## 南東域バリア井戸揚水状況

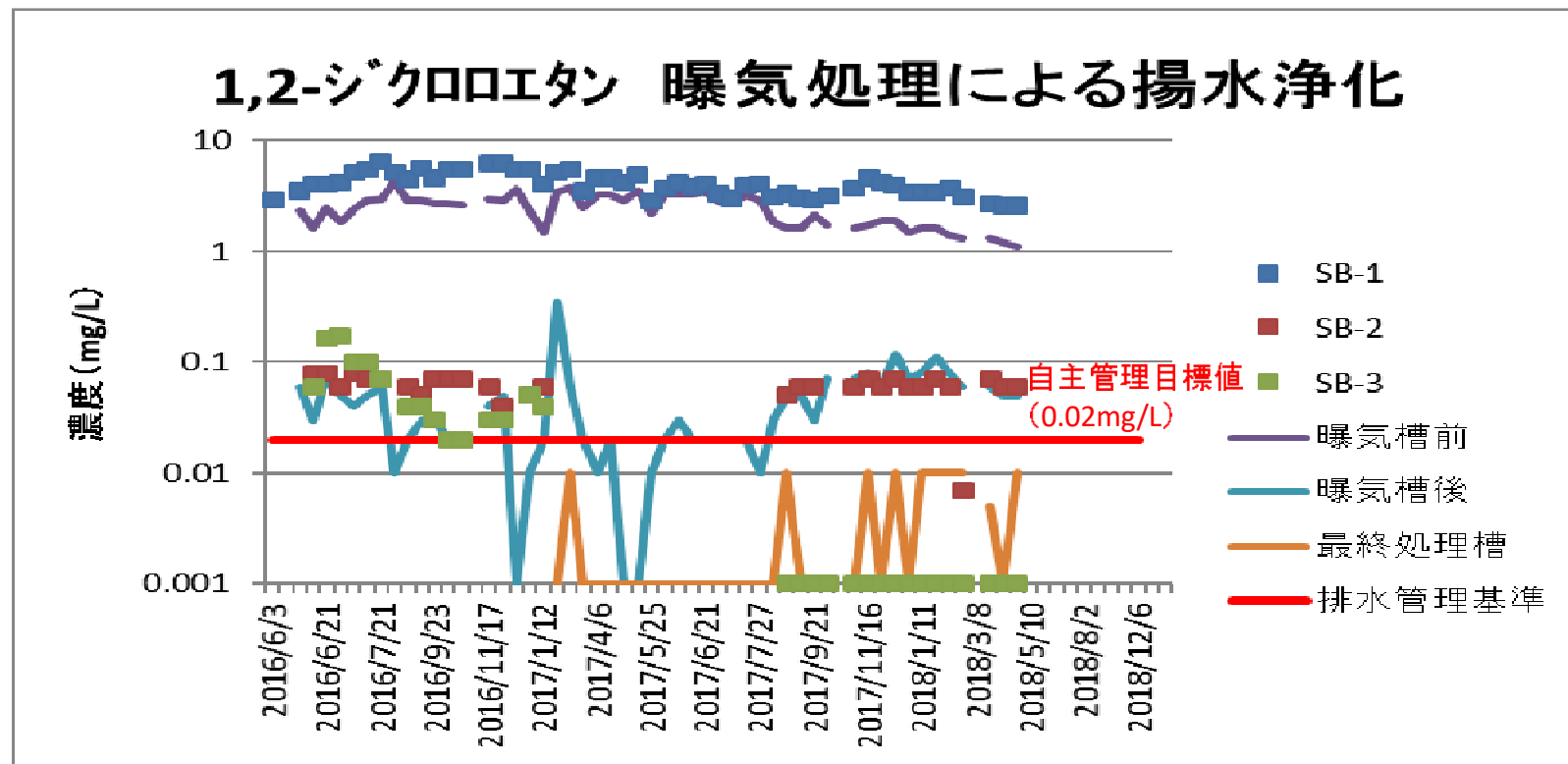


# 南東域バリア井戸揚水処理設備運転実績



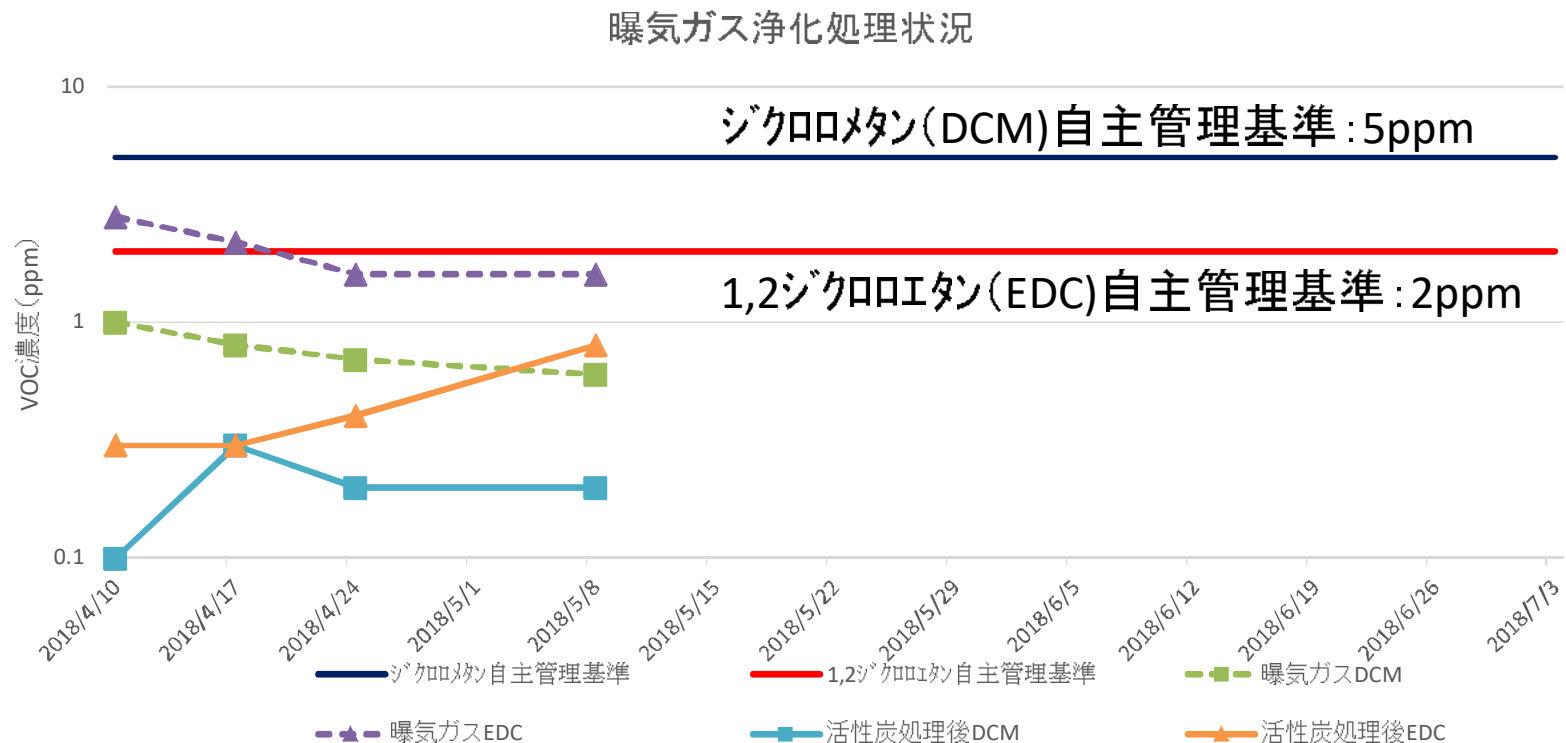
曝気処理によるジクロロメタンの濃度変化を図示した。SB-1の揚水は、ほぼ2～1mg/Lで低下傾向が見られる。SB-2,3の揚水は不検出となっている。曝気槽前では当初1mg/L程度であったが、SB-2,3での連続揚水により最近では0.2mg/L程度まで低下している。曝気後以降では殆どのデータが「不検出」(グラフ上では0.001mg/Lと図示)で、自主管理目標値(0.1mg/L)を十分にクリアしている。

# 南東域バリア井戸揚水処理設備運転実績



曝気処理による1,2-ジクロロエタンの濃度変化を図示した。揚水中の濃度は、SB-1で6～4mg/Lで推移しており、SB-3では最近「不検出」となった。曝気槽前では、ほぼ3～1mg/L程度で推移し、曝気後では、滞留時間及び気温等の影響から0.05mg/L程度となっている。但し、最終処理槽においては、ほぼ「不検出」(グラフ上では0.001mg/Lと図示)まで低下し、自主管理基準値をクリアしている。

# 南東域バリア井戸揚水処理設備運転実績



曝気処理によるVOCガスを含む排気については、VOC成分を活性炭で吸着除去し、大気放出している。VOCガスそれぞれの排出自主管理基準(ジクロロメタン:5ppm、1,2ジクロロエタン:2ppm)をクリアしている。また、曝気ガス中のVOC濃度低下傾向も見られ、今後、活性炭吸着能力も考慮し、活性炭取替頻度を検討する。